

# 汎用型飼料収穫機のサイレージ発酵品質と 作業可能面積および飼料生産コスト

畜産環境部

## 1 背景、目的

汎用型飼料収穫機（図1。以下、汎用機）は、収穫部アタッチメントの交換により、トウモロコシや飼料用稲等の材料草を細断後、ロールバール成形でき、走行部が軟弱地盤に強いクローラ型であることから、水田を活用した飼料自給率向上に大きく貢献できると期待されています。

そこで、汎用機の導入計画に必要な、生産されたサイレージの発酵品質、作業可能面積および飼料生産コストを明らかにしました。

## 2 成果の内容、特徴

- 1) 汎用機によって収穫・調製されたラップサイレージの発酵品質は、非常に優れており、さらに、6～12か月間保存しても品質の低下はわずかです（データ略）。
- 2) 汎用機の一日本作業可能面積は、トウモロコシ・ソルガム混播では2.0ha、飼料用稲では1.2haであり、収穫期間中の作業可能面積は、それぞれ36ha（2回刈延べ72ha）および38haです（データ略）。
- 3) トウモロコシ・ソルガム混播の飼料生産コストは、固定費5,951千円、変動費311千円／haであり、生産物乾物1kg当たりコストが30円以下となる栽培面積は23ha以上です（図2）。
- 4) 飼料用稲では、栽培経費を耕種農家側が負担し、畜産農家側の負担は収穫経費のみとすると、その飼料生産コストは、固定費3,657千円、変動費67千円／haであり、生産物乾物1kg当たりコストが30円以下となる栽培面積は18ha以上です（図2）。

### 3 主要なデータなど



長大作物用アタッチメント



飼料用稲用アタッチメント

図1 汎用型飼料収穫機

注) 開発機関は生物系特定産業技術研究支援センター。  
平成21年度市販開始、同9月県内で1機導入。

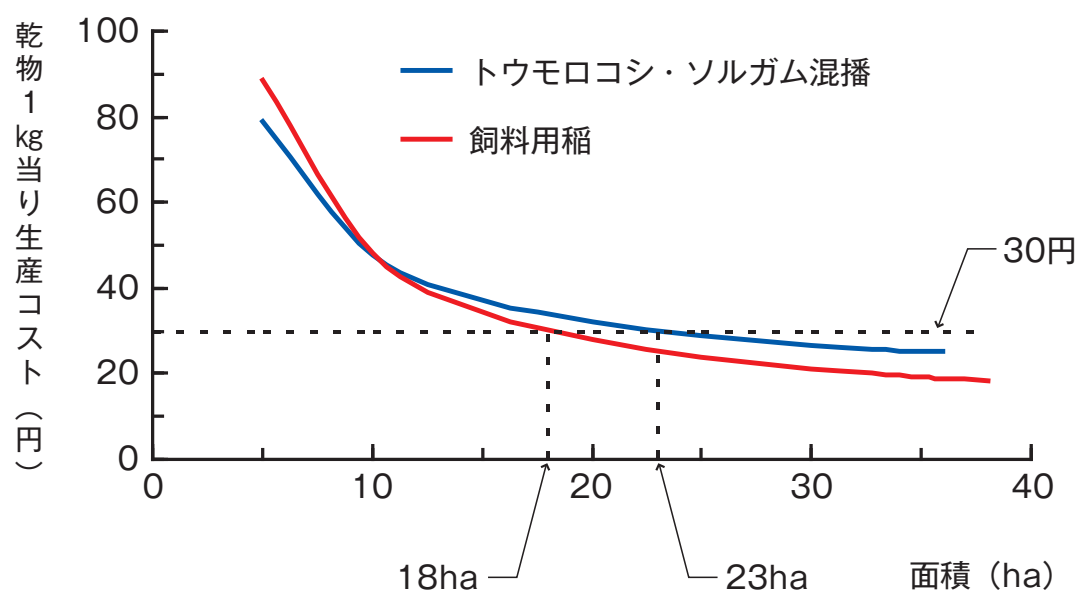


図2 汎用機の飼料生産コスト

- 注) 1. 乾物収量：トウモロコシ・ソルガム混播19(13+6)t/ha、飼料用稲9t/ha。  
2. 主要機械金額：汎用機1,730万円、長大作物用アタッチメント130万円、飼料用稲用アタッチメント160万円、自走式バールラッパー273万円。  
3. 固定費：減価償却費と修繕費の合計。  
変動費：種苗費、肥料費、農薬費、燃料費、資材費、労働費、その他経費の合計。ただし、飼料用稲では収穫作業に係る経費のみを計上。  
4. 減価償却費：補助金圧縮を汎用機・収穫部アタッチメント1/2、自走式バールラッパー1/3とし、耐用年数5年で計算。